

# 「背骨道路」の整備

## ～新幹線駅へのアクセス構築と市の一体化促進～

黒部市 都市建設部 建設課

### 1. はじめに

黒部市は、富山県の東部に位置し、北に富山湾を臨み南に立山連峰を擁する、面積約 426km<sup>2</sup>、人口約 42,000 人の市です。日本一深い黒部峡谷とその断崖絶壁を縫うように走るトロッコ電車、黒部川の電源開発によって開かれた宇奈月温泉などが知られており、映画等で有名な「黒部ダム」の地下発電所（黒部川第四発電所）が市内にあります。

また、黒部川の豊かで清らかな流れは、富山湾の多様な魚介類や米を中心とした農産物を育み、一部が地下水となって黒部川扇状地先端の約 600 箇所自噴する「清水（しょうず）」は全国名水百選にも選ばれています。豊かな地下水は工業用水にも適し、安価な電力と相まって世界有数のファスナーとアルミ建材メーカーの主力工場が立地するなど工業も盛んです。

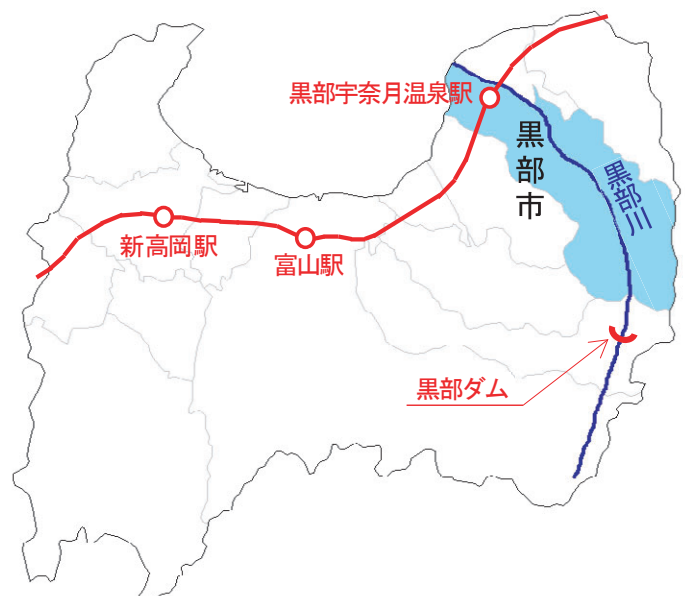
今年 3 月 14 日、北陸新幹線が開業し、市内に「黒部宇奈月温泉駅」が設置されたことから、これを最大のチャンスととらえ、黒部市の豊かな資源と利点を活かし、それらに磨きをかけることで、市民や訪れる人にとって魅力あるまちづくりを進めています。



黒部川と黒部川扇状地



北陸新幹線 黒部宇奈月温泉駅



黒部市の位置

## 2. 道路整備状況

黒部市における道路の状況は、国道・県道・市道合わせて760路線、実延長520km余りとなっています。平成26年度は、「背骨道路」と国道8号バイパスの開通により、全路線の総延長が約20km伸びるとともに、認定区間等に大きな変更がありました。

種別	路線数	実延長
国道（一般）	2路線	13.2km
県道	20路線	89.4km
市道	738路線	418.7km
計	760路線	521.2km

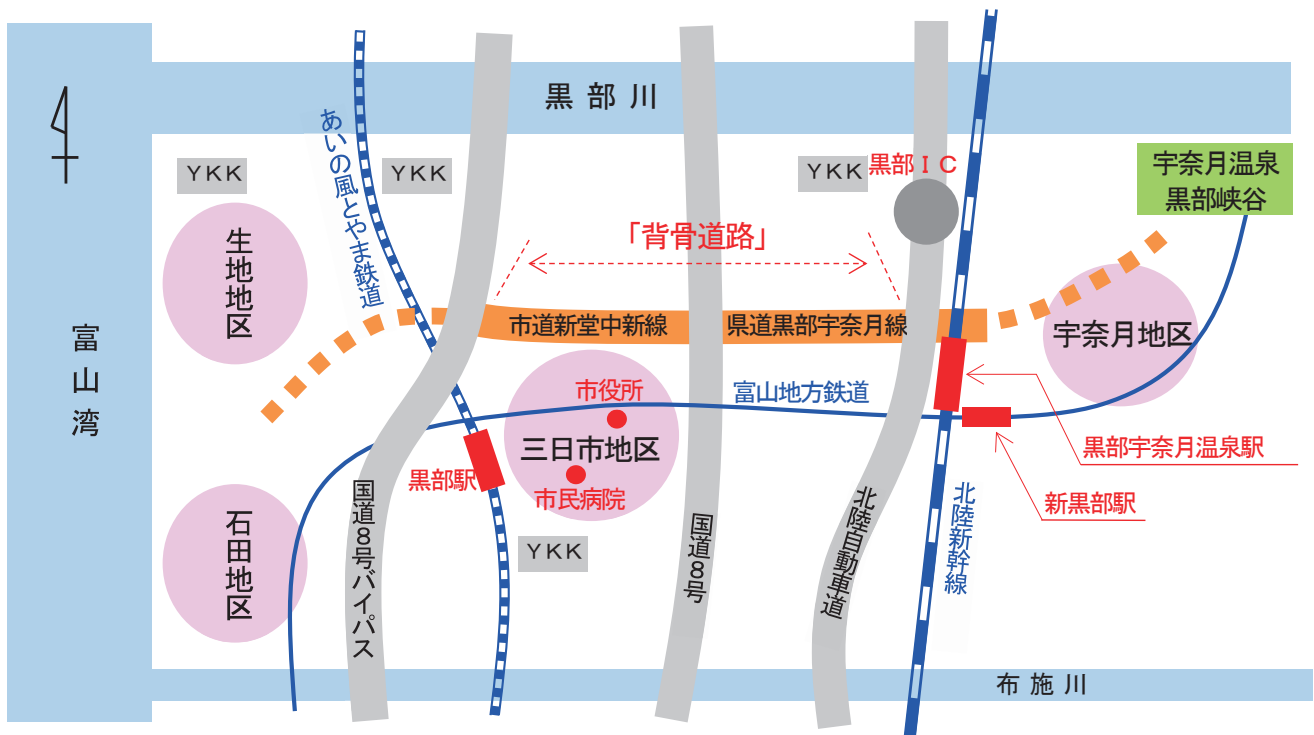
（平成27年3月31日現在）

## 3. 事業の背景

黒部市は、昭和の町村合併により誕生した市で、ほぼ1万人の人口密集地が3箇所（三日市、生地、石田）に分散しており、また、それら地区を分断するように、あいの風とやま鉄道（北陸新幹線の開業に伴いJR北陸本線から経営分離）と富山地方鉄道が市域を縦横断しています。そのようなことから、道路網は複雑で整備に時間がかかり、地区間の移動が容易でなく、物理的・心理的に市としての一体化を図りにくい状況にありました。

そのような中、平成3年策定の「黒部市幹線道路網計画」においては、市内の交通を円滑にするとともに、当時計画が発表されていた国道8号バイパスと北陸新幹線の駅を結び、市の中央を東西に貫く道路を最重要路線として平成14年に都市計画決定（都市計画道路新駅中新線）し、「背骨道路」と称して整備してきました。

その後、平成の大合併（平成18年3月：旧黒部市と旧宇奈月町による新設合併）により、市域が拡大し、市街地がさらに分散したことから、宇奈月温泉・黒部峡谷から海岸に至り、市の一体化を図る縦貫道路として、また、新幹線の開業を控え、県東部の各地から新幹線駅に至る主要アクセス道路として、「背骨道路」の役割はますます大きくなりました。





## 4. 工事概要

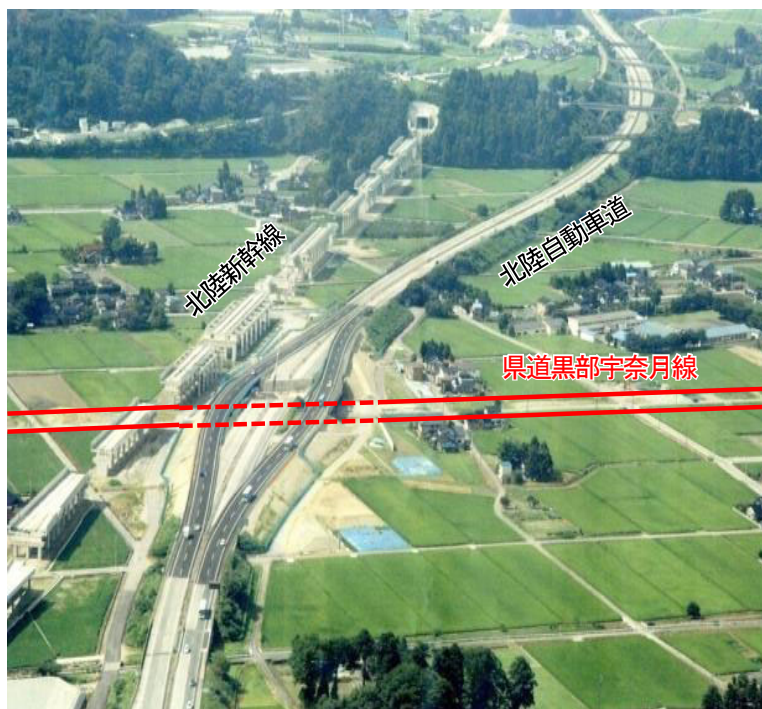
「都市計画道路新駅中新線（4,700m）」のうち、北陸新幹線「黒部宇奈月温泉駅」から既存国道8号までの「県道黒部宇奈月線（2,400m）」が富山県において整備され、平成26年11月開通しました。また、既存国道8号から国道8号バイパスまでの「市道新堂中新線（2,300m）」を、国の社会資本整備総合交付金及び県の新幹線新駅関連市道整備補助金を活用して黒部市において整備し、平成27年2月開通しました。この2路線が一本となって、「背骨道路」が黒部宇奈月温泉駅から国道8号バイパス間において暫定2車線で完成しました。

	県道黒部宇奈月線	市道新堂中新線
事業主体	富山県（新川土木センター）	黒部市
延長	L=2,400m	L=2,300m
幅員	W=27.0m（暫定2車線 W=13.0m）	W=30.0m（暫定2車線 W=14.5m）
区間	黒部宇奈月温泉駅～国道8号	国道8号～国道8号バイパス
事業期間	平成12年度～平成26年度	平成10年度～平成26年度
事業費	約47億円	約36億円

北陸自動車道の横断工事（富山県新川土木センター所管）においては、既存横断ボックスの横に2車線用のボックスを新たに増設しました。北陸自動車道の上下線を各々安全な線形で外側に迂回させて行うという大規模な工事で、4年の歳月と13億円の経費を要しました。



新設ボックスの施工



平成19年8月



平成20年11月



平成26年11月



## 5. 事業の効果

### ① 北陸新幹線へのアクセス

北陸の新しい大動脈である国道8号バイパスと北陸新幹線を直結する道路であり、県東部各地から黒部宇奈月温泉駅に至る際の重要なアクセス道路となっています。

また、市では、「背骨道路」を通して黒部宇奈月温泉駅と黒部駅（あいの風とやま鉄道）を結ぶバス路線を開設するなど、公共交通ネットワークの充実も図っています。

### ② 市の一体化促進

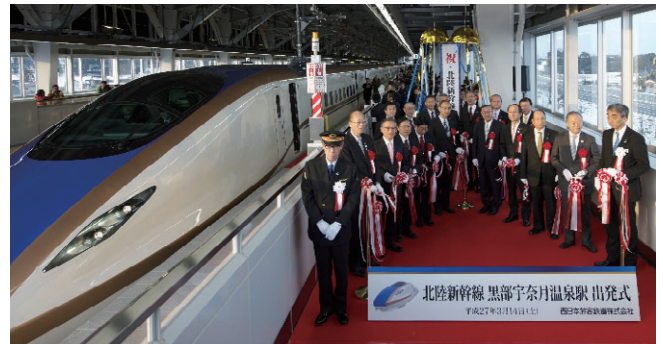
市内の各地区から中心市街地に至る交通利便性が向上しました。特に、合併前の旧黒部市地域と旧宇奈月町地域の一体化を図る環境が整備されました。

### ③ 市の活性化促進

沿線には公共施設や商業施設が立地しつつあり、市民の購買機会や雇用機会の拡大、にぎわいの創出等により、市の活性化に寄与することが期待されます。



国道8号バイパス開通（平成27年3月1日）



北陸新幹線開業（平成27年3月14日）



市街地と黒部宇奈月温泉駅を結ぶ路線バス



国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所「国道8号入善黒部バイパス開通」パンフレット抜粋

## 6. 今後の課題

### ① 交通量増加への対応

国道8号入善黒部バイパス（新規開通区間7.3km：暫定2車線）が3月1日開通し、北陸新幹線及び黒部宇奈月温泉駅が3月14日開業しました。以後、市内の交通の流れが大きく変わり、交通量が増加しています。市では、新幹線開業を機会に交流人口の拡大を目指してまちづくりに取り組んでおり、交通量の増加傾向は今後も続くと考えられ、国道8号バイパスとともに本路線の4車線化等さらなる整備が必要です。

### ② 山側及び海側への延伸

本路線の整備が黒部宇奈月温泉駅までとなっており、宇奈月温泉まで一本の道路で直結していません。黒部川の上流から下流までの観光拠点を一直線で結ぶには、山側及び海側両方向への延伸が必要となります。また、海岸地帯（生地及び石田）から中心市街地（三日市）への交通利便性は全体的にはやや向上したものの、国道8号バイパスにより迂回が必要になった箇所もあります。中心市街地へのスムーズなアクセスを実現し、市の一体化をより促進するためにも本路線の延伸が必要です。

## 7. おわりに

北陸新幹線と国道8号バイパスといった国家プロジェクトが好機となってこの事業が加速し一定の完成をみたことは、黒部市にとって幸いでした。一方で、「背骨道路」という名称が市内である程度通用するほど、常に市道路行政の最重要路線として重点的に取り組む中で、市民や関係者に長年にわたり説明してきたことも重要であったと思います。

今後も、明確な理念の下、市民の理解と国・県等の支援を得ながら、本路線が名実ともに黒部市の「背骨道路」として市発展の中軸となるよう、さらなる整備に取り組んでいきたいと考えています。



平成 26 年 11 月 26 日



平成 27 年 2 月 26 日